

①作家

日常生活の中で、みなさんは本を読んでいらっしゃるでしょうか？

本屋さんへ行くと、目立つ位置にさまざまな賞を取った作品が陳列され、その本の説明が目につきます。受賞作は単行本から文庫本まで幅広く販売され、多くの人に読まれています。ご存知の通り、本を書く人を「作家」と呼びます。

実はこの「作家」という言葉、仏教語なのです。仏教語では「さっけ」と読み、辞典によれば、“禅の言葉で、卓越した力量のある禅僧。はたらきのある者”とあります。

一般的に思い描く「作家」とはだいぶ意味合いが違うと感じられますが、禅の教えは、師匠から弟子へと正しく受け継がれていくものです。ですから、正しい教えを正しく伝えるためには、自分が卓越した力量がないとできません。その力量をもって弟子を育て、正しく仏の教えを伝えることが師匠の役目の一つであるのです。

今の「作家」は、物を作り出すことができれば皆、作家と呼ばれ、作り出した物で何かを伝えようとします。特にインターネットが広がった現代では、小説や映像などさまざまなものが、良きにしろ悪きにしろ溢れています。その中で、本当に何が正しいものなのか？正しくないものか？ 禅の「作家」のように、自らの力量で判断していかなければならない時代なのだと思います。

②アバター

アバターと聞くと、ある映画を思い出す方が多いことでしょう。遠い未来、主人公が、宇宙のとある惑星で、自分の意識を「アバター」に移し、現地の人と交流をする…。簡単に言えばそのような話でした。

「アバター」の意味は「化身」です。現在一般的には「コンピュータなどで使われる自分を表す指標のようなもの」を意味しています。小さな動物やロボットなどさまざまなもので表され、自分自身の目印のように使います。

元々は、古代インドの言葉で「アバターラ」といい、仏教でもヒンドゥー教でも用いられ、「化身」という意味を持ちます。特にヒンドゥー教の世界では、お釈迦さまは、神様の九番目の化身であるとされました。

実在の人間であるお釈迦さまが神様の化身だという考え方も、見方を変えれば面白いかもしれません。神様の化身といわれるほど、お釈迦さまはインドにおいて偉大な存在であったといえるでしょう。